

佳作

ボランティアのおじいちゃん

茨城県 日立市立櫛形小学校三年 櫻井 まい

私の住んでいる所は、学校から少し遠くて歩いて五十分くらいかかります。毎朝早おきをして、あつい日もさむい日もがんばって歩いていきます。

そんな通学路には、同じ地いきに住んでいるボランティアのおじいちゃんがいて、私たちが登校する時にいっしょに歩いてくれます。

登校中に後ろから自転車がくると、「自転車がきたぞー。」

と大声で知らせてくれて、横だん歩道では車をどめてわたるように声をかけてくれます。私たちが安全に登校するのを見まもってくれます。

一年生の時は、きんちようして、おじいちゃんにあいさつをしたり、お話しすることができずにいたけれど、二年生になって「いつも見まもってくれてありがとう」の気持ちをお手紙に書いてわたしたり

しました。

そんなおじいちゃんが、三年生の夏休み前で、ボランティアをやめることになりました。おじいちゃんのおくさんの体調がわるくなってしまったそうです。

おじいちゃんがおばあちゃんのそばにいないと、外に一人で出ておじいちゃんのことをさがしに行ってしまったり、自分のみのまわりのことを何もできなくなってしまうたり、全部おじいちゃんがお世話をしているそうです。

ボランティアをやめることを決めたころから、おじいちゃんの元気がなくなってしまった気がしました。

子どもたちのことも心ばい、おばあちゃんのこと心ばい、おじいちゃんの気持ちがかかったので、私はとても悲しい気持ちになり、おじいちゃんにお手紙を書きました。

「まだいっしょに歩いてほしいです。朝おじいちゃんがいらないのはさみしいです。」

おじいちゃんからは、「まいちゃん、ありがとう。でも、もういっしょには歩いてあげれないんだ。」

私が悲しい顔をしてしまうと、おじいちゃんもつらくなると思ったので、夏休み前までも、いつも通りに元気に歩こうと決めました。

おじいちゃんが歩くさいごの日、かんしゃの気持ちをつたえようと思っていたけれど、横だん歩道のしんごうがかわってしまい、何も言えませんでした。

夏休みに入り、同じ登校はんのお友達といっしょに、おり紙でおったメダルにメッセージを書いておじいちゃんの家に行き、おれいをつたえて、メダルを首からさげてあげました。おじいちゃんはよろこんでくれていて、私もすごくうれしかったです。おじいちゃんは、

「おばあちゃんが元気になったら、またいっしょに歩こうね。」

と言ってくれました。私は、おばあちゃんが元気になってくれることをねがって、二学きからもがんばって歩こうと思います。

「おじいちゃん、ありがとう。」